



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月7日

我孫子市小中一貫教育だより
第383号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「こほく・あらき ふれあいプロジェクト」

湖北小学校6年生総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラム授業を実施しました。「夢わくわく大作戦」と名付けたこの単元は、自分の将来の夢や仕事について考えるために、①自己理解、②夢の具体化、③実現に向けた自己変革、④他との関わりで構成されており、本時は④の授業として、既習の「認知症サポーター養成講座」を足掛かりとして展開されました。

授業者が本時の学習課題「まわりの人との関わり方について考えよう。」を提示。考えるにあたって既習の「認知症サポーター養成講座」を思い出すよう指示し、大画面に授業の様子や振り返りを板書した写真を映し出しました。始めに「認知症の人はどんな助けが必要だったか？」と問い、児童は既習事項を思い出しながら「優しく接してほしい。」「怒らないでほしい。」「言葉をしっかりかけてほしい。」など、たくさんの発表がありました。さらに、授業者はアニメの祖父と孫の会話を引き合いに出しながら「認知症の人は助けてもらえたらどんな気持ちになる？」と問い、これにも多くの児童が「感謝」「安心」「うれしい」など積極的に発表していました。

授業者は最後の振り返りとして「これから自分が周りの人たちと関わっていくにあたり、どんなふうに関わりたいか、どんなことを大事にしたいか。」を個で考えてワークシートに記入するよう指示。児童たちはそれぞれがしっかりと考え、「困っているように見えたら助ける。」「これから周りをもっとよく見て生活する。」「言葉をかけることを大事にする。」といったねらいに迫るような発言があり、授業者からのまとめと評価で本時は終了しました。



「未来に残してつなぐ ふさ カリキュラム」～ハザードマップを作ろう

布佐小学校4年生が総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラム「ハザードマップを作ろう」の検証学習を行いました。

事前に学習用タブレットを使い地域のハザードマップを確認し、どのようなことがハザードマップからわかったか、全体で情報共有しました。その後、自分の家はどこにあり水害被害にあったときにはどこが避難場所か確認し、グループ毎に自分たちのオリジナルなハザードマップを作るために崖はどこにあり、危険箇所はどこにあるなど、どのような情報を載せるか話し合いました。自分の住む身近な地域のことで、児童たちはすでに知っている知識を出し合うなどして活発な話し合い活動がなされました。



今後、地域の方々の力をおかりしてフィールドワークを行います。フィールドワークでは、防災倉庫などの見学を行い、自分たちのオリジナルなハザードマップを作成するとのことでした。普段何気なく使っている道にどんな危険が潜んでいるのか、どうしたら回避することができるのか、命に係わる大切なマップであることを意識して、布佐中区オリジナルカリキュラムの通り「未来に残せるハザードマップ」になるよう仕上げていきます。